

- 1 件 名 第1回アリーナ整備検討会議
2 日 時 令和6年8月29日(木) 13:00~14:30
3 場 所 本庁舎3階 第3会議室
4 会議内容
-

【13時 開会】

【司会】

定刻となりましたので、ただ今から第1回アリーナ整備検討会議を開催いたします。
みなさま本日は、ご多忙のところ、多数の方々にご出席を頂きまして、誠にありがとうございます。
本日の司会を担当いたします、岡山市市民生活局
スポーツ文化部長の浅沼と申します。
よろしくお願いいたします。

なお、本日は、
岡山商工会議所 高谷副会頭の代理として、森副会頭
岡山シーガルズ 高田取締役の代理として、近藤部長
にご出席いただいております。

会議の前に、配付資料の確認をさせていただきます。
お手元の資料を確認ください。

- ①本日の会議次第、②アリーナ整備検討会議メンバー表、③本日の配席表、④資料1~5
資料1 基本計画の概要版、資料2 アリーナ整備PR資料、資料3 他都市のアリーナ整備事例
資料4 検討課題の整理について、資料5 アリーナ整備に関するアンケートについて
すべての資料がお揃いでしょうか。

(確認完了)

それでは、開会にあたり、大森岡山市長からごあいさつを申し上げます。

【大森座長あいさつ】

【司会】

ありがとうございました。
それでは初回ですので、参加者の自己紹介をいただきたく存じます。
名簿順に沿って、一言ずつ自己紹介をお願いします。それでは、大森岡山市長より、お願いします。

(参加者自己紹介)

【司会】

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入りますが、進行を座長の大森市長にお願いしたいと考えております。

それでは大森市長、議事の進行をお願いします。

【大森座長】

それでは、座長ということで議事の進行を務めさせていただきます。議事進行につきまして、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、座って進行をさせていただきます。

お手元の資料の次第に沿いまして、進行してまいります。

はじめに、「(1)基本計画 概要説明及びアリーナ整備PR資料」について、事務局から説明願います。

【事務局】

(1)基本計画 概要説明及びアリーナ整備 PR 資料について 説明

【大森座長】

ありがとうございました。ただ今の事務局の説明につきまして、ご質問やご意見などはございませんか。

特に資料2の岡山の未来を創り出すアリーナ、このPR資料はここでご了解をいただければ、様々なところにこの資料を持って我々が考えているアリーナの一端を説明させていただこうかなと思っております。

とりあえずよろしいですかね。では次、(2)、(3)、他都市のアリーナ整備事例、そして検討課題の整理について、一括して事務局から説明をお願いいたします。

そして、せっかくの機会ですから、皆様方から、今も少し挨拶ではご説明をいただきましたけれども、具体的にこういうイメージを持っているってことを言っていただければ、我々もそれを踏まえて今後対応できると思いますので、よろしくお願いします。

それでは(2)、(3)の説明をお願いします。

【事務局】

(2)他都市のアリーナ(公設民営)整備事例

(3)検討課題の整理について 説明

【大森座長】

ありがとうございます。

(2)と(3)について事務局から説明がありました。特にこれからの課題整理、いくつかの項目がございます。それぞれの視点でご意見を賜ればと思います。

時間の関係もありますので、一人2分程度でお願いできたらと思います。三村委員から回っていただいて、最後に副座長、そして顧問にお願いできればと思います。よろしくお願いします。

【三村氏】

ご説明ありがとうございました。市が中心になって作られた基本計画、非常によくできていると思います。

この線に沿って今のような課題の中で、まずは規模。これまで、シーガル協議会や岡山商工会議所での検討では、独立採算を考慮すると、最低を 3,000 席からはじめて、国際試合で求められる 5,000 席、さらに 3,000 席増やして 8,000 席で収支計算を進めました。当然、規模が大きくなればなるほど建設費も運営維持費も膨らみます。

なので、独立採算で黒字化を目指すということを前提として最適な規模を考えたときには、もちろん座席数もとても大事だと思います。高松が 1 万人収容できるアリーナが予定されるため、だったら岡山も負けてはならないという話もわかりますが、やはり量より質。例えばDXを検討しますとか、最新鋭の機材がずっと整備し続けられるような、質の問題を重視したアリーナと言った方が私自身はより重要じゃないかと思っております。

さらにはパラリンピックが開催されておりますけれども、ダイバーシティ・インクルージョン・UDとかに配慮した、また来たいと思っていただけるアリーナ。質の重視の日本一を目指すと言う方が、黒字も含めてリピーターも増やせるのではないかとこの視点でございます。

運営体制につきましても、これからこの事業方針について、これも今まで随分検討しておりますけれども、本格的に座組ができておりますので、実質的に安定的に維持ができるアリーナ、どこまで黒字がやれるかっていうところは、様々な課題あると思っておりますけれども、ここを一番重要視して検討していく必要があると思っております。

財源については、例えば最近ですとさっきもあつた企業版ふるさと納税で物納などもございます。具体的には、カーボンニュートラルを意識したような、アリーナのインフラそのものに対して、岡山市以外の企業さんからご提供いただくようなやり方も含めて、多様な財源の確保ということも十分に検討していく必要があると思っております。

以上でございます。

【三浦氏】

私の興味があるところは、年間を通じてトップチームがどれくらい集客できるのかなというところの現状プラス、あるいは海外からどんなチームを呼んできて、どのようなイベントをするのか、そういったことも含めた、スケジューリングが必要なのかなど。さらにそれに加えて、2億 5,000 万円かかるという試算を出しているの、コンサート等のエンターテイメントがどのくらい入るかなというところを、少し見える化をしてもらった方が安心するんじゃないかなという気はしております。

もう1つは、運営をどこがするのかというところがやはり、市民としては気になるのではないかなと思います。おそらく、地元の企業も含めて、香川のようにコンソーシアムを作りながら、東京あるいは大阪の企業とともにやっていくということが、いろいろ知恵を出し合うにはいいのかなという気はするんですけれども、そういった2点が非常に気になるということと、このアリーナだけに特化するというよりは、この中にありますように、市民の皆さんには、これを作ることによって周辺も潤うし、海外、県内からも多くの人たちが来るというようなことをアピールしてあげると、市民も安心してくれるというような気がしています。

以上です。

【林氏】

私からは 3 つほど話したいと思っておりますが、大前提としては、極端な話をすると、私はスポーツを主語にするのはやめようと。つまりスポーツのためではないんですね。市民のため、地域経済のため、それは皆さん大前提だとおわかりいただいているかと思っておりますけれども、どうしてもスポーツを盛り上げるというよ

うな言い方をすると僕は市民から受け入れられないと思っています。それを踏まえまして、3 つほど申し上げますと、今日冒頭で申し上げたとおり、稼ぎ出せる施設、あるいは地域を稼がせる施設。国も、コストセンターからプロフィットセンターという言い方をしています。

なので、できれば、自治体から管理運営を任せるではなくて、稼いだお金を自治体に納める。そのぐらいの計画を持ってやろうとする事業体に対して、管理運営あるいは経営を任せる。経営計画があつての施設であるわけだから、施設ありきの施設であつてはいけないということなので、どういう事業体に稼がせる計画を出させて、そういう仕様にするかという考え方が必要だと思ひます。

それと関連して、アリーナを使用する、こちらにもコンテンツホルダーであるトップスポーツチームが来られておりますけれども、それぞれのスポーツチームに私が言うのもおこがましいですが、マネジメント力の強化ということが必要になるかと思ひます。

箱を作つて人が集客できるか、そんなことはないわけで、やはり魅力的なコンテンツ、魅力的なサービス。それが提供できるコンテンツホルダーのマネジメント力の強化、人材の育成補強。そういう意味では私も理科大学で、中国経済産業局の力をお借りしながら、そういう人材育成カレッジというものを9月から始めます。スポーツチームのマネジメント能力を強化するということが必要になるということです。

それと、アリーナ単体もいいのですが、エリア一帯をどう盛り上げるか。副都心ではありませんが、どちらかというところには価値創造。若者がインキュベーションとして、新規事業を起こしたいというワクワク感が創出されるようなエリアとしてのブランディング。その1つの拠点としてのアリーナと言うべきではないか。例えば研究所の機能であるとか、人材育成とかオープンイノベーションの促進だとか、そういうシンボルとしてのアリーナという機能があつて欲しいなというふうに思ひます。

最後に、今回冒頭でも申し上げました、アリーナという拠点を通じて、シーガルズさんもすでにやってらっしゃいますけれども、アジアに岡山を売り込む。そのためのメディア機能だとか発信機能というものを、ぜひ、アリーナの中に加えていただきたいというふうに思ひております。

以上です。

【松井氏】

私は基本構想を見させていただくときに、これ、どうなんかなと思ひました。私の組織は県のスポーツ協会ということで、先ほど申し上げました87の競技団体が加盟しておりますが、これは全てアマチュアスポーツでございます。

トップスポーツということで今日、4団体の方が来られておりますけれども、トップスポーツをさらさら卑下することはないわけなので、しかしながら、この市民に対する市民の感情、インパクトということになると、やはり生涯スポーツとか、学区に根を張つたスポーツ団体の活動の拠点をどういうふうになりに出していただく、飛んでいただく、戻っていただく。そこをもう少し深掘りをしないと、市民の認識度、市民の新アリーナに対する思いというのは、薄れていくのではないかと。

具体的に申しますと、岡山市の場合は学区で体育協会が組織されています。今、ジップアリーナでも小学校、保育園、幼稚園の子供たちが、それぞれの団体で運動会をやっております。全く天候に左右されずに先生方、保護者の方、園児が活動している。ものすごく盛り上がっています。それを岡山市の場合は、先ほど申しました、学区に体育協会、スポーツ協会が存在しているので、その学区ごとで運動会とか、体育大会をやっている。その辺にもしっかりアプローチができるような働きをお示しいただくことが、私はスポーツなので、スポーツに特化する必要もないんですけれども、スポーツ全般を盛り上げる、ひいては市民の皆様の新アリーナに対する思いがさらに醸成できるのではないかと思ひております。

以上です。

【近藤氏】

SVのライセンスの座席の条件は5,000席。今、ジップアリーナをメインアリーナとして登録をしているが、トイレの数でリーグから改善要求が出されています。なので、これに限らず、昨今スポーツをする方が増えてきていると思うんですけども、そういった方にやさしい施設であって欲しい。トイレにしても、親子で入られるぐらいのイオンモールにあるような広さがあったりとか、そういったものがあれば、また来てもらえる、またスポーツをしに来てもらえる、観に来てもらえる施設になるのではないかと思います。

そうやってリピーターが増えればそこが防災拠点になったりだとか、交流の場になったりだとか、地域づくりに自然と繋がっていくのではないかと思います。

事業採算性に関係するかどうかわかりませんが、シーガルズの場合は、ママさんバレーとか障害者のバレーのチームであるとかたくさんありますし、高校生、中学生のバレーの合宿の受け入れを年に数千名受け入れています。

そういったように、シーガルズ単体でアリーナを使うこともあると思いますけれども、市民や一般の方と一緒にどんどん体育館を使っていくという要素をシーガルズは持っているので、そんな形で稼働率を上げる協力をしていきたいなと思っています。

【中島氏】

我々としては、やはり独立採算というところがすごく重要になってくると思うので、自クラブとしては、使用料を十分に払えるようになっていければと思っています。

そのためにも、やはり施設規模だったり、施設機能のところがすごく重要になっていて、我々自身が稼げるようにならないと、しっかりと使用料を払えないと思うので、そのあたりを設計される方や市の方とも十分に検討して、具体的な数字を入れるようになっていければと思っています。

そして、シーガルズさんと同じように、我々、アマチュアの団体様も、使用の状況についてはすごく意見を言われていますので、プロだけではなくて、お話の団体もバランスよく使えるようにしていくことも、あわせて検討していければと思っています。

でも、まずは独立採算というところを優先的に考えていければなと思っていますので、この辺りをよくお話ができればと思っています。

以上です。

【羽場氏】

いろいろ、このアリーナの計画などを見て、我々、岡山リベッツとしても、ここで日本一を決める試合をして、リーグ優勝を果たしたいというような夢というか、ワクワクするような、アリーナだな、というのがまず第1印象です。かといって、他の都市のアリーナとか見ると、間違った表現かもしれませんが、いわゆる派手な収容人数だとか、大きかったりするところがあるんですが、私個人としては、ハードばかりに目がいくのではなく、中身のコンテンツ、いわゆるソフトというところで、他の都市との差別化というのが図れば、本当に独創的なオリジナリティのあるアリーナ施設、スポーツに限らず、様々なものが開催されるようなアリーナができるのではないかと考えておりますので、そういう点も1つ考慮に入れてもいいのではないかなと思っています。

以上です。

【北川氏】

トップチームがやるべきことは、まさに使うときのコンテンツをどれだけ充実させていくかということと、林先生からあったように、運営がしっかりするというよりも、使うことによってどう稼ぐのかというのはこの主要団体3団体がしっかり考えなければいけないことだと思っております。

施設の内容というよりも、自分たちが行っているコンテンツと合わせて、どうすれば収益がプラスにできるのか、というのはこの3団体しか検討できないと思いますので、そこはしっかり考えていかなければいけないと思っております。

1つ希望を申し上げるならば、コンサートアリーナとなるのかスポーツアリーナとなるのか、あるいは松井様からあったアマチュアがしっかり使える場所になっていくのか、あるいはしっかりトップチーム活動ができる施設になっているのか、ここはやっぱり公設民営のポイントになってくると思いますので、しっかりこの場で議論できればと思っております。

以上です。

【岩田氏】

私、事務方としてこのアリーナ計画に最初の方から関わらせていただいている。

前提として公設民営、独立採算ということで今、計画を進めているんですけども、その中で皆さん言われた通り、運営どうしていくのかというところが一番大切なのかなと。どういう運営をするからこういう規模感、こういう設備、こういう機能がある。と、いうあたりをしっかりと色々な方のご意見を伺って、整理をしていきたい。

ただ、やっぱり土地も限られた面積しかございませんので、そこにはまる、あと、最終的には事業費がどうなるのか、財源も含めて、そこら辺のバランスをどう取っていくのかというのは非常に難しいところではありますけれども、様々な方のご意見をいただきながら、岡山らしいアリーナができればいいなということで、先ほど色々な方が言われましたけど、差別化ということで、岡山ならではの形ができればありがたいなと思っておりますので、忌憚ないご意見、いろいろお聞かせ願えたらと思っております。

よろしく申し上げます。

【長澤氏】

私の方からは、今までも皆さんからお話がありましたけれども、やはり運営面のところ、運営主体がなかなか見えないというところが一番心配しているところでございます。運用面でうまくいくはずだったけれども、やっぱり蓋を開けたらうまくいかなかったというプロジェクトが一番よくない。金融機関としてもそういうのは是非とも避けたいケースだと考えておりますので、なるべく数字で積み上げて語ることが望ましいと思っております。

例えば一案ですが、こういう大きな場以外に、ワーキングチームみたいなおところを作って、実務者が集まって、細かいところを詰めていく、積み上げていくというような方法というものではないかと思っております。

その中で、採算が回る前提での魅力のあるアリーナというのができればと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【野田氏】

ご紹介で、近隣のアリーナの収容人数の話がありましたけれども、神戸や高松に1万人規模の最大収容者数ができること、また、広島にもすでに1万人規模のアリーナがあって、さらにニュースではバスケットボールのホームチームの新アリーナ構想があるということを報道していたりして、その中であって岡山、これからアリーナ構想を作るにあたって、そういった近隣のアリーナとの競争力をどうやって考えていくのかなど。

先ほどからソフトはハードだけじゃなくてソフトも重要、運営も重要という話がありましたけれども、ハードは1回作ってしまったら後からは変更ができないので、後からなんでこんなものを作ってしまったのか、と言われられないような、しっかりした競争力、魅力あるアリーナを計画して作るべきだなと思いました。

それから経済同友会としては、アリーナが存在する意義ですとか、それによってまちの魅力がどう高まっていくのかというようなところの意識を高め、産業界等でのアリーナ建設機運を醸成していければと思っています。

以上です。

【神崎氏】

先ほどからいろいろ話があって、ちょうど野田さんから話がありましたが、規模感について言えば、やはり岡山の日本全体、西日本地域における場所の優位性というのは、多分揺るぎないものがあります。

残念ながら、それだけのものを吸収できるものがなかったということで、今回の新アリーナでそういったものに期待するとすれば、やはり一定の規模の大きさが必要だろうと思っていて、先ほどから質ということもございましたし、大きければいいというものではないんですけれども、どう最適な規模を検討するかと言えばやはり、この西日本地区、特に中四国地域において、まず最大級というものを目指して、最終的な規模、座席数、そのあたりを検討していけたらいいなと思います。

それから今回、場所がもう示されていて、なかなか制約があるんですが、これから人口が減っていくことや、高齢化していくことは目に見えているわけで、そういったところで様々な年齢の方や、当然配慮しなくてはならない障害者に対して、利用しやすいアクセスで言うと今ここをぎりぎりいっぱいそこに作っているので、駅から移動する、あるいは車でつけて、この会場に入る動線をどのように配慮していくかを検討していただく必要があるかと思っています。

それからこのアリーナに期待するのは、この周辺における経済的な波及効果ということを考えれば、最近出来ている施設っていうと、単独ではないんですね。ショッピングセンターがあるだとか、いろんな集客施設っていうものがいろいろ入っていると。同じところに集約していると。そういったことも、場所的な制限はあるんですが、それも合わせて検討する必要があるだろうと思います。

それから、いま、室内競技のプロ3チームが非常に大きなきっかけということで、場所が大事なものであると思いますが、稼働率をいかに上げていくか、維持していくかと考えると、やっぱり多目的に使えるようにしていかないといけないなと思うと、スポーツであつたりとか、もちろんコンサートイベントもそうですし、市民の方が何かいろんなことに使えるような、そういったものにしていく。

例えば経済界の立場から言えばコンベンション的な、そういったものも必要かもしれません。そう考えると、使い勝手のよい、例えば、大きな運搬施設が横づけできるとか、そういったことを考えていかないと結果的に物も入れられない、入れないからできることが限られるよね、というようなことになってしまうと稼働率も上がらないということを考えれば、多目的に使えるようなことを考えていかなきゃいけないかなと思っています。

以上です。

【高橋氏】

かなり素晴らしい意見が出ているんですが、私が強調したいのは、やはりマーケティングですね。いろんな意味でのマーケティング。スポーツにおける、どれだけの岡山エリアの需要があるのか。どれだけのお客様がいらっしゃるのか。例えばイベントのときに1万席のものを作って、1万人集まるのかというところもしっかりと考えて調査していく必要があるのではないかなと思います。

それから、これちょっと逆説的になるかもしれませんが、先ほどもちょっと話がありましたが、スポーツのためにというよりも、やはり地域を盛り上げるんだ、岡山の市民に、ちょっと特化すると子どもたちに、夢を持ってもらえる、そういう施設にしていきたいと私は考えています。

そのためには何が必要なのか。これは先ほどトップチームの方からもありましたが、いわゆる体育館ではないんだと。やはりこれはアリーナなんだと。その発想の原点を、やはり素晴らしい、皆さんが楽しめる、そしてそこで集える。そして、先生方がおっしゃいました、そこで何か新しいものが生まれる、そういうようなものにしていけばいいのではないかなと思います。

1つの例といいますか、大森市長がご判断されて作られたのはハレノワですよ。あれはやはりどういう機能を持っているのか、何をコンテンツとして作っていくのかをかなり研究されてできたと思います。今本当に成功で、全国から多くの方が集まっておられる。

スポーツ施設ではない、そういう、いわゆる夢のある施設の今までの検討経過であるとか、それも私どもやはり勉強しながら、どういうことができるのか、何をつくらなきゃいけないのか。それがマーケット、皆さんと一緒にしていきたいと思います。

最後に、でき上がるのが6、7年後。その時の状況というのがどうなのか、いわゆるDXであるとか、例えばチャットGPTに代表されるような生成AIとか、そんなものもある。それがどうなっていくのか。そこを専門家のご意見をお伺いしながら、できたときにもう陳腐化しているということにならないように、先を見据えて、やはり難しいと思うんですが、このような検討を皆さんと一緒に進めていきたいと思います。

以上です。

【延原氏】

この議論に関して、本当に時間には限りがあることは承知しているんですけども、施設の機能に対するアイデア、これは、先ほど松井専務の方からもありましたが、やはり地域の人々の声や、今言うと、建設や管理をする側だけではなく、そういう地域の人々や、それから利用するチーム、プレイヤー。それから、観戦にこられるお客様、それから、行われるイベントを影で支えている専門の業者さん。そういう方々がたくさん、多様なステークホルダーがいると思うので、その人たちの声を聞いていければと思います。

それから、先ほどもちょっとありましたけども、パラアスリートやハンデを持たれている方々の声も、やはり聞き取りをしていくべきだと思いますし、そういうことができれば、北川会長が言われたような、スポーツが持つコンテンツがそこで輝いていくのかなと思っています。

【森氏】

皆さんからほとんどお話をいただいたところですが、もう1つ私の具体的なアイデアというか、いくつかありますのでお話しします。

山下衆議院議員がかなり推されているeスポーツについてお話しします。あんまりちゃんとは知りませんが、eスポーツが持っている集客力、これから先を考えると、めちゃくちゃある。

というのが、スポーツ選手は、本番を1日迎えると、2日目、3日目は思うようにプレーできませんでしょう。特に体育館でやるスポーツは体力を使います。

ところがeスポーツは連戦ができます。4、5日連続で使えます。これでかなり利用稼働率が上がります。そしてファンが多いので、ものすごく集客もできると思いますが、ただ必要なのは、いろんな周辺の最新の機器であったり、真ん中に映すであろう大型ビジョンの質であったり、音の響き方であったり、そういうあまり大きくはできないけれども、やっぱりあそこを使いたいよね、きらっと光っているよね、というところを、最新の設備を更新し、できるだけ具合を整える。時々で5年10年ですぐ陳腐化するから、更新が簡単にできるような、そういうアイデアが必要なんじゃないかなと思いました。

あと、ぜひ下はコンクリートで作っていただいて、アイスショーがすぐできるように。このアイスショーはめっちゃ稼げます。氷がすぐ張ってもすぐ溶けるように思われますが、実はできる。ただ下が床だと、ご承知の通り、ジップアリーナ飛び跳ねてもらったらわかると思いますが、スプリング入っているのでどんどん跳ねます。あれ跳ねるともう他のことが何もできないので。ちょっとそこあたりを、何にでも変えられる床は必要かなと思っています。

それから稼ぐという意味で、サッカースタジアムには必ずありますが、VIPボックスですね。各スポンサーが買っていただける、年間通じて買っていただけるBOX席。これはかなり充実をさせる方がいいと思います。いろんなBOX席に全国行かせていただいておりますが、これでBOX席かみたいのもあります。すごいねっていうところもあります。だからそのあたり研究をしていただいて、これは企業としてぜひ欲しいなと思えるようなBOX席のアイデアをいただければと思います。

それから、これ、車で移動はファジアーノもそうですが、基本できませんので、駅から歩けますねということなんですけれども、最寄りの駅だと北長瀬駅。今の駅の大きさだと、イベント時に対応できるかどうかという、多分できないと思います。プラットフォームの大きさが足りない。

となると、JRさんの関係の方にもぜひこの座組に入っていただく必要があるかなと思います。JRとの連携をかなり密にやらないとうまくいかないのではないかなというふうに考えました。

それから、先ほどもありましたローリングのオペレーション。これは主催者側が非常に便利に感じるためのいろんな利便性がお客様にとっての利便性に加えて、出演される方々の利便性も非常に問われるところではないかと思っています。

あと、いろんなサッカースタジアムに行ってみてわかるんですけれども、そのピッチの綺麗な芝生を上の方から眺めながら、他のイベントをやっている。例えばスイスですと、その年に採れたワインの品評会をやっています。ただ目線の外にあると綺麗なピッチが見えるので、何となく盛り上がり、たくさん買っていただけ仕掛けなんですけれども、アリーナも、要はオンタイムでイベントがあるときはいいのですが、ないときにどう稼働させるかというのがとても重要で、となると、今の施設にどんな機能をつけるか。

おいしいレストランがあるとか、いいスポーツジムがあるとか。いろんな複合的な要素も、周辺を含めて考えていかないと、ポツとできても、ちょっと想像すると、悲しいのは、何にもないときは人っ子ひとりいなくて、がらんとしていて、本当にまちの再生に役立っているの、みたいなことになるとちょっと残念だなと思いますので、いい意味でのエリアができていますから、既存のエリアといかに連携させるか。そこは少し真剣に考えていいかなというように思いました。

以上です。

【松田副座長】

第1回目のアリーナ整備検討会で多くの意見が出されて、相当大きな風呂敷が広げられたように思い

ますけれども、これから先、何回か検討会を重ねていく度に、おそらくまた違った角度から、ご意見、アイデアが出てくるだろうと思います。

それらは必要なことだと思うので、どしどしアイデアを皆さん出していきたいと思いますが、コロナ禍の中で、東京オリンピックは無観客で行われざるを得なかったわけですけれども、他にも多くのコンサートであったり、ミュージシャンが関わる出し物、そういったイベントも中止になったり、非常に想像しなかった世界を私たちは経験したわけですけれども、逆にそういった中で、非常に進んだものがあるのが、やはりITの関係。

まさにDXだと思うんですけれども、今施設の話で盛り上がっているわけですが、このDXの世界というのは多分、時空が違う進め方をすると思っています。さらに進んでいくと思うので、逆に私達、こういう空間いわゆるデジタル空間として、こういう空間が欲しいということ、DXの関係者の方々に伝えていきたい。これがあるからそれを使うというのではなくて、こういうものを作ってもらえないかという、そういった発信の仕方を、DXアリーナを通じて伝えていければありがたいなと思います。

今日、岡山市の資料2に出していただいた岡山の未来を創り出すアリーナ。大変象徴的にまとまっているなというように思います。この中でいろんな意見が、まだ出てくるだろうと思うんですけれども、ぜひ、皆さんと議論を進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

今日はありがとうございました。

【田口顧問】

ありがとうございます。皆さんのいろんな意見を聞いて、それをちょっとまとめて事務局からいただいて、我々議会の方にも、それを資料提供していただき、1つの起爆剤として、また議論を高めたい。そんな思いであります。

ここで私が個人的な思いを言ったらそれは議会の思いと捉えられては困るので、一応今日は個人的な思いを少しお話をさせていただきたいと思う。

スポーツは、岡山市アリーナをこのアリーナを中心として考えて、既存の施設、浦安の体育館、それから隣に岡山ドーム、それから瀬戸の体育館、いろんな施設を総合的にとらまえた上での、いわゆる生涯スポーツのあり方はどうあるのか。その中にアリーナはどういうふうな位置付けでやるのか、ということをもまず岡山市全体での生涯スポーツ並びに競技スポーツ、それには当然、岡山県の施設であるジップアリーナも入ります。岡山市の中にありますので。そうしたものを考えた上での、競技スポーツ、生涯スポーツ、そしてこのアリーナはもう1つ、魅せるスポーツ、これはアリーナしかできない。

私、プロスポーツもそうなんですけれども、子どもたち、これから未来を目指す子どもたち。今回、岡選手が金メダルを取りました。そうした世界に羽ばたける、そうした、いわゆる、非常に高い世界クラスのスポーツが、地元の小学生中学生が観られる。それが岡山のアリーナなんだよと。そんな夢のある施設にしたい。

また、エンタメである、要するに今まで福岡行ったり、広島行ったり、神戸行ったり大阪行ったり、ひょっとしたら東京まで行って、ファンとして一生懸命応援をして、見に行っていました。まさしく私の子どもが追っかけて、もう37歳になりましたけど、もう北海道から沖縄、福岡まで、券がどっかで当たるだろうと応募して、わざわざ飛んで行っていた。そんな一流アーティストが、岡山の地元で観られる。これって本当に今の高校生中学生そして、若者、本当に魅力があるし、面白い施設になるのではないかなと。

そのためにはやはり、このアリーナが魅せれる、そして誇れるそんなアリーナをみんなで作りたい。これ私の私見でございますので、恐縮でございます。そんなアリーナはぜひ作っていききたい。そしてみんなと

力を合わせてやりたいと思います。

そしてもう1点だけ最後に、もしよろしかったら、この資料でもありましたように、先進市のアリーナも近場で言えば高松とかありますんで、もし日程等、皆さんお揃いであれば、視察でもしながら、いろんな勉強を今後して行って、みんなで、一番いいものは何だということをこれからも深く議論していきたいと思うのでどうぞよろしくお願いします。

今日はどうもお疲れ様でございます。ありがとうございました。

【大森座長】

ありがとうございました。でもまだ終わっていません。

最後私からも少しお話をさせていただきたいと思います。高橋さんの方からハレノワの話が出たので、ハレノワの作る過程で何があったのかを、少し申し上げたいと思います。

今ハレノワは大中小、劇場が3つあります。それから練習室が10を超えている状況であります。大劇場は1,760席になっているんですよ。これも当初2,000席を超えるものを作った方がいいのではないかっていう議論がありました。今の様々な方がおっしゃっている、独立採算、我々あそこは独立採算ではないですけれども、採算性を上げるにはどうするかということを考え、徹底的に文科系の行事を考えてみると、やっぱり1,800前後が一番採算性がいいということで、そこをまず軸に据えたんですね。

それからもう1つは、演劇をやっている皆さん方が代表して様々なご意見をいただきました。代表して最後は仲代達矢さんまで来られて、800という数字はぜひ作って欲しいと。これは何かというと、地声で、観客全員に聞こえる数字っていうのがこれ、ということがありました。

それから最後、アングラ劇場みたいなものというのは、市民のちょっとしたいわゆる素人集団がやっていくにはちょっといいということで、大中小、そして練習室を作っていく、現在、文化の拠点というのはもちろんなんですけれども、それだけじゃなくて、表町周辺というのは随分変わったのではないかなと。多くの施設があそこにできるようになって、随分勢いを増していると私は思っています。

それから、オール岡山で考えても、例えば、ロックコンサートやったところ、6割の方が県外から来ていた。このハレノワに来たいがために、岡山に来るといふ人たちが相当数いる。名前を出していいのかわかりませんが、山崎育三郎さんのいくつかの講演で最後が岡山だったんですね。もうとにかくチケットが取れないんですが、遠くからきている。文化の面では、演劇、音楽、そういう面では、成功しているのかなと思っています。

これがそのまま、スポーツの世界、またコンサートの世界に適用できるものではないと思います。そういう面では、先ほど来、話がありましたけれども、1つは北川さんのファジアーノ含めて4つのプロスポーツがどういうふうに考えていくのかというのは、すごい大きな話だろうと思いますし、それから松井さんがおっしゃっているように、生涯スポーツにどうやってはね返ってプラスに働かせていくのかっていうのもすごい重要なんじゃないかなと思います。

そして様々なキーワードが出てきました。多分、今日のために少し勉強されておられるなど、本当にありがたいことだなと私は思ったんですけれども、そういうキーワードをベースに、これから事務局の方で整理をさせていただき、次回はより詰めた形で、もし、数字的な定量的な評価をもっとやったほうがいいのではないかなということであれば、個別に委員会を作るといふものもあるかもしれないし、事務局の方から、それぞれのところに相談に行くということもあるのではないかなと思っています。

本当は昨年度にこれをやった方がよかったのかもしれないんですけれども、諸情勢が固まってなかったもので今年になってしまいましたが、今いただいた意見をベースに、もう少し深く掘り下げていきたいと思うの

で、よろしくお願いいたします。

最後アンケートの話がありますので、今までおっしゃった意見の中で、言い足りないところがあれば、ぜひ言っていただければと思います。

では、アンケートをお願いします。

【事務局】

(4)アリーナ整備に関するアンケート(意識調査)について 説明

【大森座長】

ありがとうございました。では、質問等があればお願いします。

【三浦氏】

資料1の計画策定の背景に慢性的なアリーナの不足と書いてありますけれども、我々は主に大学や高校のスポーツに携わっておりますが、確かに不足しています。先ほどあったように、体育館は平日の活用が非常に少ないんですね。そういったところを考えると、今回、市民の方に実際はどうかは別としても、参加を促すためには、こういったアリーナが出来た時に使いたいかどうか。競技団体であるとか、教育機関であるとか、企業だとかに聞いてみる手はあるかなと思います。

私が今まで友人から聞いた話で、気候、立地、食事の良さから100人規模のチームを岡山に合宿に来させたかったが、該当する場所がなかったと聞きました。100人が1週間来るとそれこそ潤います。

平日の活用で言うと、企業なんかの運動会が最近が増えてきたので、そういうところが使いたいかどうかということと、もう1つは先ほどもありましたが、アリーナに付随して何があったらいいとか、そういったようなことをこのアンケートで市民の方に尋ねてみるのもよいかと思います。

【森氏】

アンケートの形式は・・・Webか。何でもいいのですが、タイトルのところにぜひ岡慎之介君を採用してほしい。

室内競技ですし、岡山が生んだ星ですので。ぜひこういう機会を取り上げて、世界ナンバーワンの体操競技もアリーナで見られますというような。

【大森座長】

アンケートあんまり時間取らないと思ったんですけども、いろいろあって非常にありがたい話です。

他に何かございますか。

では、全体としてあと10分ほどありますので、ご意見があればお願いできますでしょうか。

神崎さんと目が合いましたが、いかがでしょうか。

【神崎氏】

たまたま目が合っただけでご指名を受けてしまいました。特にあえて何かがあるというわけではありませんが、ひとつ思いますのが、先ほど稼働率上げると申し上げたのですが、それと関連して、なるべく利用に制限を設けないということですね。

こういう施設だと、つつい縛ってしまって使えないということになってしまいますので、あまり制限を設

けない。そういう空間を作る。

今回のきっかけは室内プロスポーツのレギュレーション変更があったということで、私もそこから一緒に考えさせてもらっているんですけども、さあ、そこで何をやるか皆さん考えようみたいな、そういう場ではないのかなと思っております。

ちょっと話がずれてしまうんですけども、最近私がいいなと思うのがハレマチ通りですね。あそこを一車線にして、最初は渋滞があってどうなるのだと思っていましたが、ところがどっこい別に呼んだわけでもないのに若い人がだんだんたむろして、夜遅くまでいるようになった。そうするとそれなりの商店が出てくるんですね。

残念なのは結構大きな駐車場があるので、あそこに何かできればいいのにとずっと思っていますが、それは持っている人の考えなので何とも言えませんけれども、そういうふうにもあまり制限を設けずに、ああいう場所を作ってしまうと、あとは民間の力で、いろいろ工夫をしながら、いろいろ考えてくれると思うんですね。

ということで、このアリーナについても、制限するといいますか、具体的なものをあまり示しすぎない方が自由に考えられるでしょうし、未来永劫に使えるものになるのではないかなと思います。

【大森座長】

ありがとうございます。一車線化も当初は批判が多く大変だったんですけども、今では多くの飲食などが新たにできてよかったなと思うところであります。

私と岩田君と一緒に苦小牧に行ったとき、松井さんから、生涯スポーツの観点からもちゃんとやるようにと言われたんですけど、いかがでしょうか。

【松井氏】

生涯スポーツで言いますと、岡山県にはレクリエーション協会があります。

レクリエーション協会は、ニュースポーツも含めて、いろんな公民館活動等の中にも出ていっている。岡山市で言うならば公民館や大学からこういう競技があるよっていう。これはいわゆる健康で老いていくということのベースの運動でございます。そしてもう1つは、思ったんですけども、小学校なんかは小学生の目線で、アリーナがこういうものだったらもっと僕らも楽しめるよね、という子どもの目線が必要じゃないかと思えますんで、労力が大変だと思いますが、各小学校なんかにも教育委員会を通じて配布して行って。子どもの目線は無限大なんて、何かいい案が提示できるかなと思いましたので、よろしく願います。

【三村氏】

先日アリーナシンポジウムをやった時に、アマチュアスポーツの皆さんに来ていただいた。事前にヒアリングをした時に例えばアマチュアバスケットの全国大会を岡山に誘致した実績があるとお聞きしました。卓球協会の方から、「他のアマチュア団体や子供チームも同様だと思いますが、県や各自治体のスポーツ施設では、利用主体により、利用条件や使用料金が異なっています」との意見が出されました。また、ママさんバレーボール協会からは、こうした諸点を踏まえ「室内を利用する主要なスポーツ団体にヒアリングをしたうえで、プロはもちろん、市民にとって新アリーナの最適な利用方法について検討したいと思います。各団体の代表の方は、ぜひ協力し合いながら、新アリーナの有効活用について議論をしたいですね、とおっしゃっています。」との意見もありました。

これは一般的なアンケートですけども、利用者、利用を上げていくという観点と、使いやすさもありま

す。その辺で現実はどうなっているのかということや、どこまで反映できるかは別として、要望も少し聞いてみるのは、稼働率上げるという意味で大事だと思うので、改めて利用方法やニーズについて、具体的にアマチュアチームに対してヒアリング調査を実施することは、市民代表としての意見を聞くためにも大切であると思いました。

【松田副座長】

ありがとうございます。いわゆる公設民営がコンセプトとなっているわけですし、どなたからもあったが、誰がやるのかというのが非常に重要なポイントになってくるんですけれども、おそらく、今、皆さん方から聞いた意見のようなことを集約して、できる、そういったプロの方を我々は選ばないといけないということですが、その時にこれだけ条件ついていたらやりたくないよねというようなことは避けたいと思うんですよ。

重要度が高い議論がプロの中でもできて岡山で我々が考えていることが実現できそうだと、というプロを連れてこなければ、多分採算性がとれる稼働率がいいアリーナにはならないのではないかと気がしていますので、できるだけ多くの意見は集約していただいて。

ただ、条件としてこれだよ、というようなやり方ではなく、こんな意見が出ていますというやり方にしていなくてはならないのではないかとと思うので、少し意見を言わせていただきました。

【大森座長】

ありがとうございました。実施、運営主体の主たる関係者の発言は重いものがあります。

後はよろしいでしょうか。

よろしいようなので以上で終わらせていただきます。この度は活発な議論をいただきましてありがとうございます。これからが本番なので、事務局からも話をお伺いすることもあると思いますが、よろしく願います。

第2回の日程等々を含めて、事務局に進行をお願いします。

【司会】

ありがとうございました。以上をもちまして、第1回アリーナ整備検討会議を終了いたします。

次回、第2回の開催につきましては、9月下旬を予定しております。

また決まり次第日程等お知らせいたします。本日は誠にありがとうございました。